



お知らせ

地域医療講演会

新型コロナウイルス感染症の現状と予防法

院長 富満 弘之

ロボット支援手術～がん治療の新たな選択肢～

1. 泌尿器科 前立腺癌中心に 泌尿器科部長 川村 尚子
2. 消化器外科 大腸癌中心に 外科部長 円城寺 恩



日時

2月4日(土) 午後2時開講(午後1時30分開場)

入場

無料(先着順)

会場

JAとりで総合医療センター 新棟3階講堂
取手市本郷2-1-1 TEL 0297-74-5551

お問い合わせ

取手大利根ライオンズクラブ事務局 TEL 0297-74-1226

共催: 取手大利根ライオンズクラブ 協賛: JAとりで総合医療センター
取手市身体障害者福祉協議会

看護師の就職説明会

日程 毎月第3土曜日 時間 AM10:00～11:30(受付AM9:30～)

会場 新棟3階A会議室

申し込み方法 右のQRコードで看護部ホームページを開き、「応募フォーム」
からお申し込み下さい。

お問い合わせ 看護部長: 猪瀬明美 TEL 0297-74-5551(代)



今月の表紙

富士市が撮影した「菜の花と桜(かりがね堤)」の写真です。寒い日が続いています
ので春が待ち遠しいですね。

令和五年

新しい年を迎えて

院長 富満 弘之



明けましておめでとうございます。
2023年が始まりました。
正月3日間は寒さこそ感じまし
たが、雲一つない快晴が続き、
初日の出を見て、初詣に出かけ
て手を合わせた方が多かったこ
とと思います。更には新型コロナ
ウイルス感染症に伴う行動制
限がなく、帰省して親族で楽し
いひと時を過ごした方もおられ
たことでしょう。私は新春恒例
の駅伝大会で多くの観衆が沿道
に集まり、マスク越しながら大
きな声援を送っている姿をテレ
ビで見て、これまで人が大事に
してきたものを取り戻すことが
出来つつあるように感じました。
人は一人では生きていけず、周
りの人達の助けを得ながら、お
互いに鼓舞し合いながら成長で
きることを再確認しました。当
院にとって2023年が大きな
飛躍の年になるよう、職員団結
して難題に取り組む所存です。
そのためにも昨年を振り返り、

現状をしっかりと把握すること
から始めたいと思います。

第6波の患者増は

様々な工夫で対応

2022年も病院はコロナに
始まり、コロナで終わった一年
でした。年明けこそ2年ぶりの
宣言（緊急事態、まん延防止等）
が出ていない状態での正月で
したが、一週間後には中国地方
と沖縄県でまん延防止等重点措
置宣言が出され、徐々に全国に
適用が広がりました。2021
年末の海外の状況から考えて、
日本でも感染拡大が予想されて
いたオミクロン株の流行です。
第6波と呼ばれましたが、この
オミクロン株はこれまでと少し
変化してきたように感じました。
第5波（デルタ株）は若く中年
の発症も多かったですが、6波

は再び高齢者の感染拡大が著明で
した。更にこれまでの株に比べて
感染力が非常に強く、潜伏期も短
縮した印象がありました。しかし、
肺炎に進展して重症化する患者さ
んの割合が低いことから、医師の
新型コロナウイルス感染症に対する考え方
が変わり始めました。
第6波もピークを越えて3月に
宣言は解除となりましたが、これ
までと違い、全国の新規感染者数
が1日に1万人以下に低下するこ
とがなくなりました。それでもピ
ークの底をうっているように見え
るのは、ピーク時に如何に多くの
患者が出現しているかということ
の証です。感染者は重症化しにく
くなりましたが、第5波以降は感
染者数が非常に多いため、数に対
応しなければなりませんでした。
しかし、行政は基本方針を変えな
いため、第1波の時と同じ対応を
継続しなければならず、手かせ足
かせの状態での診療を強いられま
した。コロナ以外の患者さんと同
じ空間で診療できず、診察も医師、
看護師、コメディカル全てのスタ
ッフが厳重な防護着を装着した上
で行わなければなりません。その
ために残念ながら困っている人全
員を診察することが出来ませんで
した。それでもスタッフ間で話し
合い、結果が出るまでの時間を短
縮する検査に切り替えたり、処方
を簡略化するなどの工夫を行い、

数に対応できるように努めまし
た。病棟も同様で、感染者用の
病棟は新規患者を受入れ、感染
を拡げる危険性が低くなった場
合は速やかに他病棟に移し、新
規感染者を受入れられるように
調整しました。また休日や夜間
の受入れ病床を作り、県や保健
所からの要請に応えられるよう
に努めました。これらの努力が
認められ、保健所等から感謝の
言葉をいただくことも多く、秋
には令和4年度茨城県救急医療
功労者知事表彰をいただきました。
救急を全て受入れられてい
ない状態での受賞で、戸惑いも
ありましたが、これからも受賞
に恥じないように工夫しながら
救急医療を継続したいと思いま
す。

安全な医療を行うため

患者さんにもご協力を

第7波、8波はこれまで以上
の感染者数となり、感染爆発と
言っても過言ではない状況でし
た。日本が世界で最も感染者数
が多いと言われましたが、春以
降は宣言が出されることもなく、
入国制限撤廃、旅行割開始など
経済優先の政策が次々に行われ

ました。そうなる困るのは病
院です。新型コロナウィルス感
染症を2類相当から5類に引き
下げる話は頻回に出るものの実
施されず、足かせのままでの診
療を続けた結果、2類として果
たすべき対応は全く出来ず、9
月には全例登録廃止が全国に先
駆けて茨城県で開始、ひと月後
には全国で同じ措置がとられて
現在に至ります。さらに院内感
染が起きないように全ての病院
が努力していますが、オミクロ
ン株の感染性が強いこと、入院
患者さんの感染持ち込みが増え
たこと、医療従事者の病院外で
の感染が増えたことなどから、
どの病院でも院内感染が起り、
当院においても陽性者が確認さ
れると、感染がコントロールで
きるまで病棟を閉鎖することを
繰り返し、クラスターに発展し
て病院機能を止めることになら
ないよう努めました。「病院外
はフリーで病院内はゼロコロナ」
が不可能であることは容易に理
解できると思います。病院は体
調の悪い人が、コロナ感染症の
人が集まってくる場所であり、
皆さんには、病院とはこのよう
な所であることを改めて認識し
ていただきたく思います。私達
は院内感染させないように細心
の注意を払いながら診療します

が、人が接して行う仕事である
以上、100%の感染防止はあ
りません。患者さんも感染リス
クがありますが、当院スタッフ
はもつと高い確率で感染するリ
スクを背負いながら仕事をして
います。それでも苦しんでいる
人を助けたい、そこには激務も
厭われないという彼らの信条にて
診療は成り立っています。この
点をご理解いただき、皆さんも
安全な医療が行われることに対
して医師、看護師にご協力を宜
しく願います。つまり、救急
車や病院の適正利用をお願いし
、診察や治療後は危険を少なく
するためにも早期の退院をお願
いしたく存じます。

2024年度から 「医師の働き方改革」実施

コロナ以外のことでは手術支援
ロボットのダ・ビンチを使った手
術が開始され、トラブルなく手術
が行われています。徐々に症例数
も増加し、ロボットの導入がこの
地域の皆さんに役立っていること
を嬉しく思います。益々対応が拡
がる手術法と思いますので、対応
できるように当院も準備したいと
思います。一方、皮膚科に関して
は4月から常勤医が不在になって
皆さんに大変なご迷惑をかけてお
ります。多くの大学医局に常勤医
の派遣をお願いしていますが、ど
こも医師不足のようで良い返事は
貰えていません。もう暫くはこの
体制継続が予想されます。医師確
保の努力は続けますのでご理解の
程よろしく願います。

医師以外は余り関心ないところ
と思いますが、2024年度から
「医師の働き方改革」が実施され
ます。医師も労働者と認定され、
他の職種と変わりなく規制されま
す。当直明け勤務など、これまで
医師の献身的な働きで成り立って
た部分に、全て法的規制がかかる



新型コロナ感染症の対応を検討する会議の様子

ことになります。その結果、今以
上に大学から医師派遣が難しくな
り、休日夜間診療など当院も大き
な影響を受けそうです。国内の全
病院で同じような状況になります。
皆さんにご迷惑がかからないよう
に、医療水準を落とさないように
当院として努力しますが、皆さん
も病院の適正利用について、ご協
力いただけましたら幸いです。
2023年になってもロシアに
よるウクライナ侵攻は続いていま
すし、燃料費高騰、円安などから
様々な物の値上げ、更には防衛費
増額と増税など、明るくない年明
けと感じています。今年は癸・卯
（みずのと・う）年です。癸は十
千の最後で「終わりを意味する」と
同時に、新たな成長が始まっている
一、卯は「ウサギのように温和
で跳びあがる」の意があるようで
す。2023年はコロナ禍が終わ
って穏やかとなり、これまで水面
下で努力してきたことが報われ始
める年で、向上と飛躍の始まりの
年になると私は信じます。このよ
うな縁起の良い年です。皆さんも
コロナによる閉塞感から解放され、
飛躍する年にしてください。本年
も職員一同、上を向いて良い病院
にするように努めて参りますので、
JAとりで総合医療センターをよ
ろしくお願い申し上げます。

診療放射線技師の役割

No.6 超音波検査部門

診療放射線技師の役割最終回は、画像検査の一つである超音波検査について紹介します。

人の耳では聞こえないほどの高い周波数の音を超音波といいます。超音波検査とは、この超音波を用いて体内の病変を調べる検査です。体の中に超音波を送信し、臓器や組織からはね返ってくる反射波を画像化します。

超音波が伝わりやすいように、体の表面に検査用のゼリーを塗り、超音波を送信する器械を当てて検査を行います。

超音波検査は医師をはじめ、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師が行うことができます。当院の診療放射線技師は、腹部領域、表在領域（乳腺や甲状腺等）、血管領域（心臓以外）の検査を行っています。

超音波検査は痛みがなく、手軽に検査ができます。また放射線被ばくもないため、お子さんや妊娠中の方でも安心して検査を受けることができます。多方向から調べることができ、リアルタイムで検索ができるため、胆石の移動性や血液の流れ等も確認できます。比較的短時間で多くの情報を効率・効果的に得ることができ、検診などのスクリーニング検査から、より精密な検査まで行うことができます。超音波検査は臨床の知識のみならず、病気を的確に描出する



超音波検査装置

技術がないと正確な診断につながりません。より質の高い技術の習得のため、積極的に学会や研修会へ出席し、日々技術の向上に努めています。

超音波検査における診療放射線技師の役割は、検査で病気を発見し、医師の診断に役立つ情報を提供することと考えます。

診療放射線技師 加藤木 友恵

糖尿病と腎臓病(1)

糖尿病は腎臓病？

副院長
腎臓内科部長
前田 益孝

成人5人に1人は
糖尿病とその
予備群

紀元前16世紀、古代エジプト人たちは全身の骨肉が溶けて尿に流れ出す死の病いをパピルス（羊皮紙）に記載しています。活力に満ちていた身体が、淹のように流れ出る尿とともにやせ細り朽ちていく。その病いは糖尿病であったと考えられています。我が国では光源氏のモデル、藤原道長が糖尿病で亡くなっています。貴族生活ならではの潤沢な食事と運動不足が原因だったのでしょうか。皮肉なことに飢えを克服し飽食の時代を迎えた現代、この病いが特権階級に限らぬ国民病となつてしまいました。日本人成人の5人に1人（2000万人）は糖尿病とその予備群で、過半数が糖尿病予備軍のような地区（福岡県久山町など）も報告さ

れています。

糖尿病では食事により摂取した糖分が、インスリンホルモンの欠乏や作用不足により細胞内に取り込まれません。糖は利用されないまま、尿中へ排泄されてしまい、筋肉などの身体機能はエネルギー不足に陥り衰えます。食べる量を増やしても糖は血液に留まり血糖は上がりますが、細胞は飢えている状態から抜け出せません。血液中で利用されることがなく過剰になった糖は血管や腎臓などを侵蝕し、全身のあらゆる生命活動を阻害し老化を速めます。

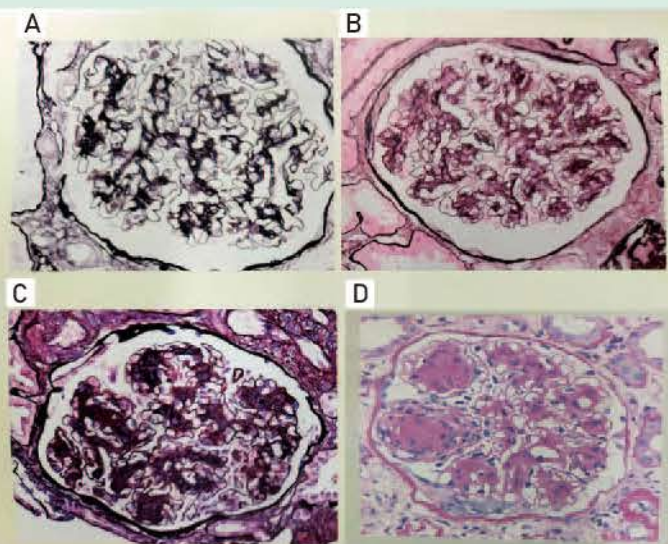
腎臓移植や透析など腎臓の働きを代行する医療（腎代替療法）が必要となります。

2016年に
糖尿病性腎症重症化
予防プログラム

2010年、透析を必要とする腎臓病（末期腎不全）の原疾患は慢性糸球体腎炎を抑えて糖尿病が最多となりました。糖尿病が国を亡ぼす病い（亡国病）となることを危惧した厚生労働省は、2016年に糖尿病性腎症重症化予防プログラムを立ち上げています。筆者は厚生労働省の研究協力者、茨城県、取手・守谷・利根町の委員としてこのプログラムの作成・推進に参画してまいりました。当院広報部の協力を得てその活動内容をシリーズで紹介することで、糖尿病性腎症（糖尿病性腎臓病）に対する皆様の認識を深めていただければと存じます。

糖尿病による腎糸球体障害

実際に血液をろ過している毛細血管のかたまり、糸を巻いたような形なので糸球体（しきゅうたい）と呼ばれています。直径は0.1ミリほど、左右の腎臓にそれぞれ100万個ずつあり、1分間に100cc（0.1リットル）、1日では0.1 x 60分 x 24時間 = 144リットル（ペットボトル144本分）の血液をろ過し原尿を生成、その内の1%を尿として排泄しています。糖尿病では A ⇒ B ⇒ C ⇒ D のようにまさに血管の目詰まりが進行し、血液がろ過できなくなっています。



(日本腎臓学会)



リハビリ
ワンポイント知識

水分摂取はいつがいい？



● 飲水のポイント

- ① 基本はお水かお茶
- ② コップ一杯をこまめに摂取
- ③ のどが渴いていなくても飲む

● 水分摂取のタイミング

- ・起床時
- ・運動前後・運動中
- ・入浴前後
- ・就寝前など

えっ、喉がかわいて
なくとも飲むの？

そうなんです。一日に必要な水分量は 体重(kg) × 35ml
体重が50kgの人なら 50 × 35 = 1750ml
水分が不足すると、暑い時期だと熱中症のリスク！
加齢と共に脳卒中・心筋梗塞などの病気を発症するリスクを高めることも。

こまめに水分を摂取することが大切です。まずは起床時と入浴後の1杯からはじめてみましょう。

当院のリハビリテーション部のInstagramでは、この他にも
患者様に有用な情報を発信しております！
こちらのQRコードからアクセス、フォロー宜しくお願いします！



おいしい治療食のレシピ

JAとりで総合医療センター 栄養部

血液透析食



材料 1人分

さば立田揚げ

A	・さば切り身	60g
	・おろし生姜	1g
	・ねぎ(漬け込み用)	適量
	・料理酒	3g
	・しょうゆ	3g
	・片栗粉	6g
	・油(吸油)	3g
	・ねぎ(白髪ねぎ用)	2g

野菜炒め

・豚ひき肉	20g
・さやいんげん	50g
・ねぎ	15g
・おろし生姜	3g
・油	3g
・料理酒	3g
・塩	0.5g
・こしょう	適量

スパゲティサラダ

・スパゲティ	8g
・きゅうり	20g
・にんじん	10g
・キャベツ	10g
・マヨネーズ	15g
・塩	0.2g

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	リン (mg)	カリウム (mg)	塩分 (g)
さば立田揚げ	232	10.5	135	218	0.7
野菜炒め	91	4.6	50	232	0.6
スパゲティサラダ	130	1.8	34	106	0.5
合計	453	16.9	219	556	1.8

作り方

さば立田揚げ

- ① さばの切り身をAに漬け込み、下味をつける。
- ② ねぎを千切りにし、水でさらす。水気をよくきる。
- ③ ①に片栗粉をまぶし、170℃の油でカラリと揚げる。
- ④ ③を盛りつけ、②を天盛りにする。

野菜炒め

- ① さやいんげんは食べやすい長さに切り、さっと茹でる。
- ② ねぎは斜め薄切りにし、水でさらす。水気をよくきる。
- ③ フライパンに油を熱し、おろし生姜と豚ひき肉を炒める。
- ④ ③に調味料と①②を加え、さらに炒める。
- ⑤ 器に盛り付ける。

スパゲティサラダ

- ① スパゲティは半分の長さに折ってから、たっぷりのお湯で茹でる(お湯に塩は入れない)。
- ② きゅうりは千切りにし、水でさらす。水気をよくきる。
- ③ にんじんは千切り、キャベツは短冊切りにする。
- ④ ③をさっと茹でてから、水気をよく切る。
- ⑤ ①②④と調味料を和える。
- ⑥ 器に盛り付ける。

連携医のご紹介

医療法人社団成裕会 桜が丘メルクリニック

院長 鎌田 裕十朗

診療科目 内科・小児科

診療時間

一般外来	9:00~11:00	月(9:15)・火・水・木・金・土
	14:15~15:45	月・火・水・金
発熱外来	11:15	月・火・水・木(11:30~11:45)・金
	16:15~16:30	月・火・水・金
予防接種	8:30~8:45	火・水・金・土
乳児健診	8:30~8:45	
インフルエンザ ワクチン	8:30~8:45	火・水・金・土
コロナワクチン	12:00	土

休診日 木曜日、土曜日の午後・日曜・祝日

連絡先 TEL 0297-70-3070 〒300-1525 取手市桜が丘1-17-1



私達のクリニックは取手市の藤代地区桜が丘にあり、医療機関では市内最東端に位置しています。内科と小児科の無床クリニックですので、外来受診・入院の依頼のみならずCT・MRI等の医療機器共同利用など精密検査や専門治療を依頼する地域連携病院として各科が揃うJAとりで総合医療センターには大変にお世話になっています。

2004年開業ですが、次第に周辺地区の高齢化が進み、病診連携や介護との連携の重要性が増していますが、新型コロナウイルスが始まったここ3年間は特に難易度が高くなっていると感じています。

そんな中ですがクリニック・スタッフの健康管理(自分を含めて)をしっかりと乗り切ろうとスタッフ一同頑張っています。

うちの新人をご紹介します



4階南病棟 看護師

春の入職時は期待と不安が入り交じり、初々しい姿の5人でしたが、今では出来ることも増え、経験を重ねることで自信に繋がっています。何事にも積極的に取り組

み、先輩に報告相談しながら安全に留意した看護を心がけ、笑顔で頑張っています。医療チームの一員としてこれからの成長を温かく見守っていただけると幸いです。

師長 宮内友美